どんどや　炎とともに運気もあがれ

# 益城町 議会だより 清水（せいすい）

平成25年(2013) 12月定例議会 No.54


平成25年度一般会計補正予算など審議 P2
一般質問　7名が町政を問う P3~P9
常任委員会レポート P10~P11
組合議会報告　議員研修 P12
議会の賛否表　教育委員任命 P13
新シリーズ 皆で健康を考えよう　むぞらしか　お宝さん P14

平成26年第1回定例議会は3月4日(火)召集予定です。詳しいことは、議会事務局にお尋ねください。(☎286-3111)

# 12月定例議会

平成25年度第4回定例議会は、12月10日から17日まで会期8日間で開かれ、2億2735万円を追加、総額108億880万円とする平成25年度一般会計補正予算など24議案（予算6、条例12、その他6）を可決・認定した。主な補正は保育所緊急整備事業補助金、家庭的保育改修事業等補助金。そのほか町陸上競技場などに指定管理者制度を導入することに伴う条例や、高遊原南消防組合解散に伴う財産処分など。

## 補正予算

### 待機児童をなくし、安心して子どもを預けられる体制づくりを

**「保育所緊急整備事業補助金」1億1445万5千円**

安心こども基金による特別対策事業として、保育環境を整備するもので、希望する人が安心して子どもを預けられる体制づくり事業。

平成26年度に保育所が新しく広崎地区にできるが更に27年度も待機児童はなくならないものと予想され、さらに安永地区に100名定員の私立保育所を計画する。開所は平成27年4月を予定。

**「家庭的保育改修事業等補助金」732万円**

保育者が職業として行う保育所であり、保育者の自宅、その他の場所で行う小規模の保育施設である。2010年から児童福祉法上に位置づけられた保育事業として、保育者の居宅等には専用の保育施設が整備されることが条件であり、平成26年度から実施を予定。

## 消防組合解散

### 今後の消防体制 住民に周知徹底を

**4月1日事務委譲**

6月議会で熊本市との間で消防事務委託が決定しており、今回「高遊原南消防組合の解散及び財産処分について」審議がなされた。

町民の安心・安全を守る身近な消防業務であり、不安を解消するためにも、しっかりと町民に説明を行うよう要望があり、賛成多数で可決した。

本年4月1日に事務委譲が行われる。

## 条例制定

### 町民のニーズに即した利用しやすい施設を目指して

**レクレーション・スポーツ施設の条例改正**

「益城町公の施設のあり方検討委員会」によるレクレーション・スポーツ施設について検討の結果、「町民運動場」「陸上競技場」「総合運動公園テニスコート」「総合体育館」については「指定管理者制度の導入を図ること」との答申をうけ、それぞれの設置及び管理について条例の全部を改正するものである。

これにより経費の削減はもとより、現行の住民サービスは絶対に低下することがないことが前提であるとし、賛成多数で可決した。

**養護老人ホーム「葉山荘」民間移譲へ**

「益城町公の施設のあり方検討委員会」による「民間移譲が望ましい」との答申をうけ、公有財産の譲渡及び公有財産の処分について審議がなされ、賛成多数で可決された。

「土地の価格については安価ではないのか」、「施設奥の土地に通じる里道の対処は」などの意見があり、土地売却については、施設を継続するという条件のもとに地目ごとの単価ではなく、総体的な単価として算出。

また、施設奥の民間の土地に通じる里道については、今後、つけかえ等対処を検討する旨の回答があった。

# 指定管理者制度導入

## レクレーション・スポーツ施設 住民サービスの充実はどうなる



一般質問

# 先の名誉町民川口元町長のご逝去に伴う町の対応はどのようにしたのか

## ご遺族の皆様方の意向にしたがった

# 町長選　出馬決意のご意向は

## 町は発展途上中、3期目は継続し益城町の安定化を目指す

渡辺　誠男議員

### 町民葬又弔辞は

**渡辺**　先日、名誉町民の川口元町長が他界されたが、葬儀告別式に当り、町民葬、又町を代表してお悔やみを申し上げ、弔辞をのべてお見送りするのが当然だと思うがいかがか。

**町長**　他界された一報を受け、役場職員幹部を招集し、その対応を協議した。

益城町の発展の基礎を築かれ、素晴らしい活躍をされた、川口元町長に哀悼の意を表し、冥福を祈り町民葬を行ったらどうか、あるいは、町民葬とあわせて川口家との合同葬をしたらどうか、また、敬意を表して町長自ら弔辞をのべさせていただきたい旨をお伝えするため、早々ご弔問に伺い町の意向をお伝えしたところ、川口家のほうで粛々と執り行いますとの返事を頂いた。

葬儀の当日、火葬場に向われる際、役場玄関前において、全職員と共に感謝と哀悼の意を込め棺をお見送りした。

### 引き続き町政運営をお願いしたい

**渡辺**　住永町長が掲げてこられた政治姿勢の理念は、日本一住みよい町づくり、益城町民の皆様が益城町に住んで良かったと、実感できるような町づくりに、終始一貫して努力され着実に実行してこられた。

まず中央小学校移転新設事業、益城町保健福祉センター、広安西小学校増築工事、地域再生道路、町道、農道の整備改良、下排水路の整備など順調に進んでいる。

町民が町長の実績を高く評価している。着実に進みだした町政改革をしっかり定着させ、日本一住みよい町づくりを目指してほしい。

益城町役場正面玄関夜景、イルミネーション

### 『今が今、一生懸命』この精神で

**町長**　2期目に入り、住民の生活、住民の声、を第一に暮らし満足度日本一宣言を大演題とし、高齢者福祉日本一、あるいは、健康問題に関し高齢者のMRIの検診無料化、人間ドックの検診助成制度、学校給食の段階的無料化、そして、子供医療費の助成、中学3年まで、そして出来れば高校3年までとマニュフェストを掲げ住民サービスに取組んできた。

便利のいい町づくりの一環として証明書の自動交付制度、日本全国の大手コンビニで取得する事が出来る画期的な取組みが出来た。4月からは、町税等の税金はコンビニで納められるように実行する。飯田山の自然公園、頂上14ヘクタールは今年度中に完成する。

国、県の指導により消防の広域化を3年数ヶ月にわたり協議会で検討、熊本市議会、益城町議会、西原村議会の同文議決にて承認され、格別の安全対策が講じられた。

子育て支援策では、医療費の高校までの無料化には、引き続き検討していく。待機児童対策は、ひろやすにし保育園、あじさい保育園が完了、広崎保育園が建設中で、安永に定員100名の保育園の準備を進める。

小規模特認校条例はどの小学校からも小規模小学校に通学できる。給食費の一部支援は月に500円の補助。益城中のグラウンドの拡張、いきいき益城っ子、育成事業、ドリーム益城っ子事業、外国語指導助手採用等学校教育にも他市町村に負けない様早い段階で取組んでいる。

飯野、福田、津森地区の定住促進補助制度を活用し過疎化、少子化対策を実施し、砥川に20区画、田中に16区画を完売した。さらに畑中に59区画、分譲中、安永に48区画、砥川に30区画、下原に31区画、寺迫に14区画計画している。

### 「継続は力なり」

政界、財界あらゆる団体との大きな人脈の力をお借りし、全身全霊を注ぎ、発展中のこの町を更に、希望輝く日本一の町へと、町づくりを目指す。

一般質問

# 町の防災態勢は進んでいるのか

出来ることから進めている

# 増加する待機児童への施策は

今後を見越して先行的に対策を進める

宮﨑　金次議員

## 町の防災態勢、特に地震対処と自主防災組織は進んでいるか

**宮﨑**　全国的に自然災害に対する備えが必要だと叫ばれている中で、我が町の災害に対する備えは進んでいるのか。

特に布田川～日奈久断層による地震への備えは出来ているのか。また各町内会ごとの自主防災組織は進んでいるのか。

### 定期的に訓練を実施、地域毎に自主防災組織の普及を図っている

**町長**　町としても何時起きるかわからない自然災害に備えて、毎年地域防災計画を策定し、昨年度は職員の参集訓練や地震対処訓練の場を通じて、災害対策本部の訓練を一応実施した。

本年度はこれまでのところ訓練は実施していないが、3月に防災訓練の実施を検討中である。

町の自主防災組織は、現在婦人防火クラブだけであるが、今後は地域毎の自主防災組織について普及を図りたい。

東日本大震災被害状況

### 町の現状から危機管理監を新設すべきでは

**宮﨑**　この数年間の進まない町の防災態勢を見て、何時起きるかわからない災害から町民を守るため、職員の防災に対する能力が向上するまでの間、専門的な知識を有する「危機管理監」的なポストを設けて、町民の安全・安心を速やかに確保すべきではないのか。

### 危機管理監については、今後検討する

**町長**　防災の専門的な知識の必要性及び危機管理監的な職務の有効性については十分認識しているが、財政的な事もあり、今後検討したい。

## 待機児童の推移及び保育園新設時の地元説明は

**宮﨑**　来年4月以降の幼稚園・保育園の入園希望者数と入園可能数及び将来保育園児が少なくなった場合の対策、更に保育園新設の場合の地元への説明は、誰が、何時、何処で実施するのか。

### 先行的に対策を行い、新設時の地元への相談はやぶさかでない

**町長**　幼稚園、保育園の入園希望者数及び入園可能数は左表のとおりで、最近の待機児童は、1年で約65人増加している。将来保育園児が減少した場合は、町立の保育園の縮小を考えている。

待機児童の推移表

| 年度 | 区分 | 入園希望者 | 入園可能数 | 差(見込み) |
|---|---|---|---|---|
| 26 | 幼稚園 | 420人 | 420人 | 0人 |
| | 保育園 | 1165人 | 1060人 | 105人 |
| 27 | 保育園 | 1230人 | 1180人 | 50人 |

なお、保育園新設の場合は、当然地元と相談しながら進めるが、全てを相談することは出来ない。地元の区長、議員、民生委員、保護者の皆さんの意見を聞いて進める事はやぶさかではないと考える。

## いきいき益城っ子事業の見直しが必要では

**宮﨑**　我が町独自の施策として、いきいき益城っ子事業で19人、ドリーム益城っ子事業で7人、特別支援教育支援員9人、計35人の職員を、予算約4千万円かけているが、その効果はどうか、さらなる見直しと、条例等の根拠の必要性はないのか。

### いきいき益城っ子事業等は、先生方及び保護者から高い評価を受けている

**教育長**　教育現場の先生方や保護者等から高い評価を頂いており、今後も各学校等の意見を聞きながら、事業目的の範囲内で柔軟な運用に努めたいと考えている。また、条例等の制定については、現在のところ考えていない。



町政を問う【12月議会】

一般質問

# 家庭的保育事業とはどのようなものか

平成22年度から児童福祉法上の事業として位置づけされた

# 益城台地西土地区画整理事業の現状の方向性と見解

できるできないにかかわらず、結論的な目途がつきつつある

稲田　忠則議員

## 家庭的保育事業の目的と事業内容は

**稲田**　家庭的保育とは、保育ママとして、家庭や空き家を借りたりして、少人数の子どもを保育するという事を聞いたことがある。

全国的に待機児童が多く、国としても認可保育所の設立に対して補助金増額の予算措置をとりながら、待機児童解消の施策が進められている。

現在、当町では待機児童が165名おり、平成26年度開園される保育園が100名定員とすると65名は入園できない。

すくすく保育室益城（4月惣領に開設）

保育ママは保育所不足の受け皿になっているともいうが、事業の目的と事業内容を聞きたい。

### 3歳未満の子どもを預かる保育形態である

**町長**　保育者の自宅やその他の場所で、3才未満の子どもを預かる保育形態のことで、平成22年度から児童福祉法上の事業として位置づけされている。事業運営経費として、補助基準を設けて、国、県、町、それぞれ3分の1負担となっている。

事業内容は、保育士の資格を持った家庭的保育者が、ひとりで3人までの子どもを預かることができ、きめ細かな保育ができる特色がある。家庭的保育補助者と呼ばれる助手をつけると5人まで預かることができる。今から認可保育所調整を行い、そこに入れなかった人に対し保護者説明会を開き、今後児童を募っていこうと考えている。

## 西土地区画整理事業一向に前向きな成果が見えない

**稲田**　平成24年8月21日の地元紙に「イズミ、益城町に複合施設2015年春開業を目指す」と発表されてから、町として、県、県警、熊本市との協議は幾度となく行われたと思う。しかし、町側から区画整理組合や地権者へ進捗状況など詳しい説明がないまま期間だけが経過したのが現状ではないのか。

### おおむねの方向性は出ている

**町長**　熊本県と数十回協議し、商圏設定見直し、交通解析による道路混雑解消対策事業案の提示を再三にわたり行ってきた。現状としてはおおむねの方向性は出ており、まず西土地区画整理組合及び東土地区画整理組合設立準備委員会への報告を行う計画である。

益城台地西区画地区

### 事業推進に向けてどう取り組む

**稲田**　町長は、「これまでは担当者レベルで仕事をさせてきたが、大きな権限を持ち合わせていないなど限界に差しかかっている」といわれた。今後事業推進に向けてどう取り組むのか伺う。

### 厳しい状況に変わりない

**町長**　県知事に会って実態を訴えたいと時間を打ち合わせている。その段階で土木部長以下と打ち合わせを行っている。できるできないにかかわらず、結論的な目途がつきつつある。

一般質問

# 子ども医療費助成を高校生まで拡大してはどうか

しっかり精査して、前向きに検討し実行できる方向で進めていきたい

石田　秀敏議員

## 子育て支援策の医療費助成制度について

**石田**　子育て支援策の一つである当町の子ども医療費助成制度は、昭和48年4月0歳児から始まり平成17年4月に就学前まで、平成19年7月に小学3年生まで、更に平成20年4月に小学6年生まで、そして平成22年4月から現在の義務教育修了の中学3年生まで拡大され、保護者の方々から大変喜ばれ、就学前から中学3年生まではおおむね2年前後で拡大されてきた。

　そういう状況の中、熊本県内の各市町村のこの制度も相当充実され、現在県下45市町村のうち中学3年生まで実施しているのが24市町村、全体の53％となっている。特に和水町と芦北町は既に高校生まで拡大しており、この高校生までの拡大については、過去平成22年3月議会で一般質問したが、当時は中学3年生まで拡大する時期であり、まずは、中学3年生までの医療費がどの程度かを見極めながら予算の見通しがつき次第早い時期に議会に提案したい、との答弁であった。

　あれから2年9か月が過ぎている。町長の考えはいかがか。

### しっかり精査し前向きに検討する

**町長**　私は平成18年の町長選に立候補した折、義務教育の期間、子ども医療費を無料にすることを公約として掲げた。しかし、財政状況を鑑み一気にできなかったので、小学校3年生まで、小学6年生まで、中学3年生までと段階的に公約を果たした。その後、議会でも町長室でも、「頑張んなっせ、高校3年生まで引き上げることでお父さん、お母さん、若い人は大変助かりますよ、どうせ中学3年生まで思い切ってしたのだから高校3年生まで」という強い要望を再三再四、受けて検討をしてきた。

　今現在、中学3年生までの医療費が1億6500万円である。これから中学卒業して高校3年間約1000名の子どもがいる。1500万～1800万円は必要と思われるので、しっかり精査し前向きに検討したい。

### 子育て支援の先頭グループとして早く取り組むべきではないか

**石田**　和水町は、人口1万1061人、子ども医療費対象者平成24年度実績で1544人のうち高校生が307人、高校生にかかった医療費が約600万円弱とのことであった。和水町と益城町を比べた場合、当町は人口3万3800人、高校生が993人で、それぞれ約3倍である。医療内容は別としてただ単に和水町の高校生にかかった医療費約600万を3倍にして1800万、この予算で実施できるとすれば、当町の約1000人の高校生、その保護者の方々のため、そして住永町政が目指す「子育て支援日本一のまちづくり」実現のため、和水町、芦北町に次ぐ子育て支援の先頭グループとして一日も早く取り組むべきと考えるがいかがか。

### 実行できる方向で進めていきたい

**町長**　高校生までの医療費無料化については、傍聴席にもお子様をお持ちの保護者がたくさん来ておられるので、裏切るわけにはいかない。

　実行できる方向で進めていきたい。

益城町保健福祉センター“はぴねす”



一般質問

# 保育園（所）卒と幼稚園卒、小学校入学時の「小1ギャップ」対策は

「いきいき益城っ子事業」の実施と子どもの特性を生かした教育に努めている

# 高齢化に伴う農業対策をどのように考えているのか

遊休農地の改善指導、不在化農地の斡旋及び有効利用を積極的に進めている

江越　信保議員

## 小学校入学は様々な幼児教育環境が異なる小一ギャップの対策を

**江越**　保育園（所）卒と幼稚園卒の子どもの間で、小学校1年生の授業態度に違いはないか。

　一般的には自由保育と小学校教育の間にズレがあると指摘されているが、保育所と幼稚園との幼児の置かれた環境からくるギャップ現象と思われる。保育園卒は長ければ6年間、給食、昼寝があるが、幼稚園卒は幼児教育環境少々異なる。

　いきなり規則正しい学校教育に入ることから、こうしたギャップに対する学校の取り組みはどのようにしているのか。

### 子どもの特性を生かし、その子に応じた教育に努めている

**教育長**　生活の中心がこれまでの遊びから学びに変わる、そのギャップの大きさは「小一プロブレム」と呼ばれている。当町では「いきいき益城っ子育成事業」を実施し、十分な成果を上げている。

　保育園卒、幼稚園卒との視点では捉えていない。

　いろんな生活の違いがあるものを一緒につないでいこうという用法、「小中連携カリキュラム」をつくり、0歳から中学3年生まで、それぞれの特性を書き出して、全保育園、幼稚園、小中学校に配布し、これを確認しながら教育に努めている。

　また、小学校1年生については、一学期目はそれぞれの学校で工夫している。

### ソフト面から子育て支援を

**江越**　子育て支援について、今後ソフト面でも考える必要はないのか。

### 子どもの安心・安全に取り組む

**町長**　待機児童の解消に努め、飯野・津森小学校にも放課後児童クラブを平成26年度開設する。

## 中山間地の農業や高齢化に伴う農家の対策を

**江越**　農家の平均年齢は66歳を超えている。当町としても高齢化が進み、耕作放棄につながるおそれがあり、町としての対策を考える必要がある。

　全国の耕作放棄地は既に滋賀県全体にも及ぶとし、国としても夢のある農業、利益ある農業などの施策が打ち出されはしても、小規模農業や中山間地農地などの所得向上の道筋は全く見えない。

　高齢化が進むこうした現状を一番知っているのは地方の自治体である。

　県内でも山鹿市においては「チーム農業」で耕作放棄地の田は1枚もないと聞く。

　当町としても、農家、JA、行政が一体となって独自の施策を考えるべきではないか。

### 耕作放棄地防止について、農地の斡旋、面積集積を積極的に進める

**町長**　担い手育成、農地の利用、耕作放棄地の解消は地域の農業振興を図る上で極めて重要。

　現在、土地利用状況の調査、パトロールによる遊休農地の改善指導を行っている。

　高齢や相続不在地主化した農地については斡旋を勧めている。さらに意欲ある農業経営の円滑な規模拡大と農地の有効利用を図るため、利用権設定促進事業や農業経営規模拡大の促進に取り組んでいる。

　将来にわたって、農地を有効利用し、地域農業を維持、発展させるため、農地の面積集積を積極的に進めなければならないと考える。

　圃場整備にあたっては、全国のモデル地区になるような整備を、行政、JA、地権者等で研究を進めている。

遊休農地の有効利用を



町政を問う【12月議会】

一般質問

# まちづくりにおいて、町長と議会、町長と職員との関係はどうあるべきと考えるか

反対がための反対はお互いしない、町長は最高責任者であり職員の意見を十二分に吸いあげる

# 次期町長選挙のあり方に望むことは何か

誹謗中傷合戦ではなく、正々堂々たる選挙戦ができればいいと望む

坂田みはる議員

## 政治姿勢

**坂田** 7年8カ月となった町長の政治姿勢については、これまでにも幾度となく伺ってきたが、今回は初心に立ち返り、答弁いただきたい。

まちづくりにおいて、町長と議会との関係はどうあるべきか、また町長と職員との関係はどうあるべきと考えているか伺う。

### 町長は提案者、議員は精査検証する立場

**町長** 私自身、いかにしてこの町を発展させるか、町民が安心して暮らせる施策を自分の力で実行したいという思いで町長に就任した。このことについてはそれぞれの議員の皆さんも全く変わりはないと思う。それぞれの立場に立って、町長は提案者、議員の皆さんはそれを精査検証する立場にある。

正しいことには賛成をし、間違っていることは正していく、反対がための反対はお互いしない関係が大事ではないかと思う。

町長と職員の関係において、優秀な18名の課長がいる。その課長と同じレベルの町長では、町は発展せず、改革もできず、リーダーシップがとれないと思っている。町長は最高責任者であり、全職員を統括するので、全ての職員よりも能力が上で、世の中を知り尽くしていなければならないと思う。それにより職員の自発的な仕事を生み出すことができ、意見を十二分に吸い上げていくことができると思う。

### 議員研修に町長同行は必要か

**坂田** 議会は、住民を代表する公選の議員で構成される地方公共団体の意思決定機関であるから、議員研修の町長同行は必要ないかと思う。

町長は町長としての研修もあり消防組合研修旅行もあり多忙である。

議員研修先での見聞については、町長より関連のある各課の課長、係長の同行が職員のやる気を引き出し、益城町のまちづくりに生かされるのではないか。

### 研修が議会改革や議会活動研修であれば同行しない

**町長** 町全体の開発のため研修するなら議員と私が一緒になって勉強した方が、町に早く取り入れられるのではという観点で同行している。

議員改革のため、議会活動の研修ということであれば私は同行しない。町長は控えて幹部職員を同行させることについて否定しない。議員の皆さんが、職員を同行させ勉強させてはということであれば研究させていただく。

## 前回の町長戦を振り返り次期町長戦に望むことは

**坂田** 前回の町長戦はかつてない恐怖心を与えた選挙であったように思う。前回の町長選を振り返り、次期町長選挙のあり方についてご自身が望まれる選挙戦と、反省すべき改善点は何であると考えるか。また、役場職員として定年までの3年をなげうってまで早期退職して対抗馬で立つことを、派閥、政争の具などと言った表現をされるのか気になる。

**町長** 候補者は常に、正々堂々と主義、主張、政策、将来の構想、まちづくりを訴え判断いただくべきだ。有権者も、この町の発展を託すたった一人しか選べない選挙だから、自分の知識、良識、まちづくりの視点で、投票に挑んでもらいたい。

選挙のあり方として、有権者から質問を受け、答弁し、公平に判断いただく公開討論会方式の選挙を望む。誹謗中傷合戦ではなく、正々堂々たる選挙戦ができればいいと望んでいる。

### 公開討論会方式の選挙を望む

新成人　初の選挙は町長選挙　清き1票を





一般質問

# 消費税増税により影響を受ける町民・事業者に対し、支援策(住宅リフォーム助成、中小企業振興基本条例)はいつ実現させるのか

町民、事業者への支援策は真剣に取り組み具体策を練る

# 「町民憩いの家」を経由する循環バスの運行の実現を

指定管理者の導入で、独自の送迎バスの運行は可能と考える

甲斐　康之議員

## 町民や事業者の支援策はいつ実現させるのか

**甲斐** 消費税の引き上げで町民や事業者、町財政も含め町政への影響はどうなると捉えているか。地元の景気後退が予想される、支援策として①住宅リフォーム助成制度の導入。②中小企業振興基本条例を制定し、支援策を早急に実現すべきではないか。

町長は、これまで、「研究・検討したい、取り組んでいきたい、真摯に受けとめたい」などと答弁しているが、どこまで調査検討がなされているか、いつ実現させるのか。

### 支援策はしっかり受けとめ、具体策を練りたい

**町長** 消費税引き上げによる地方財政への影響は、国の動向が決定しない限り、判断に苦慮している。町内事業者には少なからず影響はあると思われる。

住宅リフォーム助成制度についてはしっかりと受けとめ、商工会などを交えて具体策を練ることを考えている。

中小企業振興基本条例は、先進事例があり、参考にして真剣に取り組んでいる状況にあり、しばらく様子を見て考えていきたい。

### ないものの探しではなく地元にある宝を探し育てていく支援策を

**甲斐** 住宅リフォーム助成制度は、地元業者発注を条件に住民の方に補助を行うもの。

県内では16自治体に広がっている。自助努力は必要だが意欲ある地元事業者を町全体で育て支援していく事が大事ではないか。

中小企業振興基本条例を制定して、六次産業である地元の人たちによる地元農産物の加工製品の開発を進めて、地元消費と活用で、活性化となる町づくりを進めるべきである。

町長は、企業誘致は熱心に語るが、ないもの探しではなく、地元にあるもの、宝を探し育てていく、効果のある支援策を講じることが大事ではないか。

### 企業誘致はしっかりやっていきたい

**町長** 地元業者の育成、優先的に発注することなど、徹底している。

企業誘致については、地元企業を圧迫することがないように、しっかりやっていきたい。

新制度、新事業などは来年度予算での提案となることを理解していただきたい。

## 町は利便性の良い交通手段の実現に取り組むべきではないか

**甲斐** 「町民憩いの家」を利用している高齢者の方たちから、産交バスを利用しているが利便性が悪い、憩いの家を経由する循環バスを運行して欲しいとの要望がある。

町の地域公共交通計画のアンケートの回答では、高齢者や無免許の方たちが、公共交通について公的な支援は必要とする方は90％を超えている。

別の交通手段を考え、工夫して地方バスへの補助金が増えないようにすべきが74％になっている。

地方バスの利用者が減少しているのは、バス路線が利用者の要望に応え切れていないのではないか。町は利便性の良い高齢者の方たちの足となり得るような町独自の交通手段の実現に取り組む必要がある、具体的にどう取り組んでいくのか。

町民憩いの家

### 指定管理者の導入で、独自の送迎バスの運行は可能と考えるが時間がかかる

**町長** 路線バスは、町民全体の利便性と路線バス維持に係る町民の財政負担を念頭に運行しているため、一部の利用者には不便に感じることもあると思う。

町民憩いの家については、指定管理者制度導入を計画している。指定事業者が、経費で送迎用のバスを運行することは可能であると考える。しかし、手続きを踏んでいくため、時間がかかるという懸念をしている。

# 常任委員会レポート　12月議会

## 総務

### 葉山荘土地売却は安すぎるのでは

総務常任委員会では、付託された「平成25年度益城町一般会計補正予算」等の８議案について、慎重な審査の結果いずれも原案の通り可決した。

なお「平成25年度益城町一般会計補正予算」の中で、葉山荘土地売却に関し、「土地の鑑定の根拠及び鑑定額が周りの標準地単価に比べ、安すぎるのではないか」との質問があり、担当者より、土地の鑑定の根拠及び鑑定額について説明があった。

また議案１０４号「高遊原南消防組合の解散」に関し、「住民への説明が不十分であるとの指摘」及び「高遊原南消防署の財産の内、西原村との共有部分については、将来の煩雑性から、解散を機に清算をしたらどうか」との意見があった。

今回の現地視察は、広安西小学校増築工事現場、養護老人ホーム「葉山荘」及び津森みんなの広場の３ヶ所を視察した。

広安西小学校では、ほぼ計画通り工事が進捗しているのを確認したが、老人ホーム「葉山荘」では、敷地内の里道取付について地権者との調整が完了していないのではとの指摘があった。

津森みんなの広場では、ゴルフ練習以外の広場の使用法及び事故の責任についての確認があった。

津森みんなの広場視察

広安西小学校視察

## 福祉

### 指定管理者制度への取り組み

#### 養護老人ホーム葉山荘を民間移譲

福祉常任委員会では、付託された10議案（補正予算４議案、条例の制定４議案、公有財産の譲渡・処分２議案）について審査を行い、関係課長から詳細な説明を受け、慎重審査の結果、いずれも原案の通り可決した。

指定管理者導入に係る債務負担行為補正についてと、保育所緊急整備事業及び家庭的保育事業の内容について質疑があり、担当課長より詳細な説明を受けた。

また、公有財産の譲渡・処分については売却先法人の選定方法や不動産鑑定結果について質疑があり、担当課長から詳細な説明を受けた。

現地視察については、保育所緊急整備事業による建設予定地（安永地区）空港保育園（仮称）と養護老人ホーム葉山荘を視察した。

空港保育園（仮称）建設予定地では、敷地・周辺環境について説明を受けた。

また、葉山荘では、敷地境界及び里道の付替えについて、施設長から説明を受けた後、周辺状況を確認した。

空港保育園（仮称）建設予定地視察

養護老人ホーム葉山荘視察





# 常任委員会レポート　12月議会

## 建設経済

### 国道443号と地域再生道路の交差点の信号機の早期設置を要望

建設・経済常任委員会では、付託された８議案について審査を行い、いずれも原案の通り全会一致で可決・認定した。

一般会計補正予算では、青年就農給付金の耕作地の判断について、質疑があり、担当課長から主たる耕作地で判断をするとの回答があった。

また、公共下水道特別会計予算では、職員の時間外勤務について質疑があり、職員数が不足しているのではないかなどの意見があった。

現場視察では地域再生道路、ＪＡかみましき益城西瓜選果場、嘉島町町道路線認定承諾箇所を視察、特に、地域再生道路では、国道４４３号との交差点への早急な信号機設置の要望があった。

ＪＡかみましき益城西瓜選果場視察

地域再生道路と国道443号との交差点視察

# 組合議会からこんにちは!!

## 益城・嘉島・西原　環境衛生組合

### 環境と安全に配慮した焼却施設を視察

組合議会は、11月28日から30日の3日間、静岡県と山梨県のクリーンセンターを視察した。

**熱エネルギーを発電、温水として供給**

静岡県袋井市の「中遠クリーンセンター」は、平成20年3月から稼動しており、施設規模は、1日132tのゴミを処理でき、処理方法はシャフト式直接溶融炉を採用し、ゴミ溶融処理を中核とした環境に優しい施設となっていた。溶融された溶融物はメタルとスラグ（溶解灰）に分離され、それぞれ資源として再利用されていた。

焼却による熱エネルギーは発電、場内給湯に利用するとともに、隣接地にある余熱利用施設「風見の丘」に温水を供給しており、敷地内の調整池は多目的広場として地域住民に無料で開放されていた。

**ダイオキシン類を分解し環境に配慮**

山梨県大月市の「まるたの森クリーンセンター」では、ゴミ処理方法は連続燃焼式ストーカ炉を採用し、焼却灰は灰溶融炉でスラグにしていた。

排ガス処理はバグフィルターシステム及び触媒反応炉で排ガス中のダイオキシン類を分解し、公害防止対策に万全を期していた。

リサイクルプラザでは品目ごとにラインがあり回収品ストックヤードに保管されていた。近隣には地域還元施設「初狩憩いの公園サッカー場」を建設して市民に利用されていた。

今回の視察では、両施設とも環境と安全に配慮した施設であり、今後の施設建設に参考になる視察であった。

大月市「まるたの森クリーンセンター」

## 平成25年　議員研修

### みちのくの大震災に学ぶ

平成25年度益城町議会議員研修は、東日本大震災を経験した宮城・岩手の両県から防災の教訓を学ぶ事を目的に、11月5日(火)から7日(木)までの日程で行った。

研修1日目は、仙台市の東隣にある利府町（人口3万6千人で今回の震災で大きな被害を受けた）役場で、約3時間にわたり震災時の町の生々しい被害状況や避難者への対応、インフラ確保の為の苦労話、更に現在の復興状況　等の具体的な説明があり、最後に研修員から「震災前まで時間が戻れたら、町として何をしておくべきだったと思うか。」「遠隔市町村との協定は」「他の自治体からの応援は」「防災委員の中に女性はいるか」「災害時の常備消防と消防団の連携は」等の活発な質問があり、利府町側から震災の経験を踏まえた丁寧な回答があった。

利府町の研修を通じ、日頃から町内の建設業者、ガソリンスタンド、医療機関、交通機関、食品会社等との協定の必要性、水、食料備蓄、他の市町村との災害相互協定、地域毎の自主防災組織、防災マニアルを頭に入れて置く為の訓練、町民が使用し易い防災マップ、携帯用の防災無線の有効性等が特に参考になった。

研修2日目は、東日本大震災で大きな被害を受けた東松島市、陸前高田市の被災地及び気仙沼市の復興仮設商店街を視察し、東日本大震災による被害や復興の現状を研修した。

なお、東松島市や陸前高田市の研修時、大震災で家を失い、現在仮設住宅で生活されている「かたりべ」の人から、津波による生々しい被害の状況について、胸を打つお話を聞くことが出来た。

本研修間、天候にも恵まれ、研修の目的である「東日本大震災からの教訓」を肌で感じ取ることが出来、本当に有意義な議員研修であった。

（文責　宮崎金次）

陸前高田市奇跡の一本松





## 《12月議会での主な議案への賛否の状況》

| 事件名 | 結果 | 野田祐士 | 髙橋津代美 | 宮﨑金次 | 坂本貢 | 甲斐康之 | 寺本英孝 | 坂口政弘 | 石田秀敏 | 坂田みはる | 森上祐一 | 竹上公也 | 福永誠一 | 稲田忠則 | 荒牧昭博 | 渡辺誠男 | 山内親宣 | 江越信保 | 中村健二 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成25年度一般会計補正予算（第３号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | × | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | — |
| 平成25年度国民健康保険特別会計補正予算（第２号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 平成25年度介護保険特別会計補正予算（第２号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 平成25年度公共下水道特別会計補正予算（第３号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 平成25年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第２号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 平成25年度水道事業会計補正予算（第２号） | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 町民運動場の設置及び管理に関する条例 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 陸上競技場の設置及び管理に関する条例 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 総合運動公園テニスコートの設置及び管理に関する条例 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 総合体育館条例の制定 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 町民体育館の設置及び管理に関する条例 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 養護老人ホーム設置条例を廃止する条例 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 介護保険条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 後期高齢者医療に関する条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 水道条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 下水道条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 農業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 町営住宅条例の一部改正 | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 公有財産の譲渡について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 公有財産の処分について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 嘉島町町道の路線認定に伴う承諾について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 熊本市道の路線認定に伴う承諾について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| 高遊原南消防組合の解散について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | × | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | — |
| 高遊原南消防組合の解散に伴う財産処分について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | 欠 | ○ | × | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | — |
| 教育委員会委員の任命同意について | 可 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | — |

○：賛成　×：反対　欠：欠席　採：採択　不：不採択　可：可決　否：否決　棄：棄権

## 坂田敏昭氏を教育委員に再任

平成26年1月に教育委員が任期満了することに伴い、新たに後任の委員を任命することとなり、同氏が再任されました。

坂田氏は平成14年から教育委員を歴任し、平成21年から委員長として現在に至っています。

益城町寺中
昭和9年11月生まれ
熊本大学教育学部卒

## 編集後記

**新年明けましておめでとうございます**

昨年は、東京オリンピック・パラリンピック招致が決定し、日本を元気付ける弾みになったと感じます。その中で「お・も・て・な・し」の言葉が紹介され、日本人の持つ「一期一会」の精神「心」が表現された素晴らしいもの、と多くの方が感銘をうけたのではないでしょうか。

刻々と変化する世界情勢の中で、「日本がどうあるべきか」また「どう進むべきか」を各人が見直しを考える年となっていくような気がします。

いま、益城町は素晴らしい発展を成し遂げようと、日々進化しています。

議会も町政が目指す「日本一住み良い町」の実現に向け執行部と切磋琢磨しながら工夫と努力をしていく所存です。

町民の皆様方の今後更なるご指導、ご協力の程よろしくお願い致します。

（文責　野田祐士）

**議会広報編集特別委員会**

| | |
|---|---|
| 委員長 | 江越　信保 |
| 副委員長 | 坂田みはる |
| 委員 | 竹上　公也 |
| 委員 | 甲斐　康之 |
| 委員 | 野田　祐士 |
| 委員 | 宮﨑　金次 |

いどばた談議

# 皆で健康を考えよう

## あなたのメタボの犯人をさがせ!

ご自身に当てはまるものに○をつけてみましょう。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □ 過食 | □ 早食い | □ 間食党 | □ 夜食党 | □ 食べ物同居 |
| □ 朝食抜き | □ 料理の作り過ぎ | □ ストレス食い | □ 運動不足 | □ 油こい物好き |
| □ アルコール好き | □ 甘い物好き | □ コンビニ弁当型 | □ ファストフード型 | □ 外食型 |

健康は1日で手に入れることはできません。
日々の生活習慣があなたの健康を作ります。

「日本肥満予防健康協会資料」参照

## 益城町立益城幼稚園

冷たい空気が澄みきった園庭に、元気いっぱいのかわいい笑い声が響きわたります。

ここは、住宅地から少し離れ、周辺は畑が広がり静かな自然環境に恵まれ、2235平方メートルの広い園庭を有した、のびのび保育が一番の特徴という益城幼稚園です。

3歳児、4歳児、5歳児のそれぞれ59名が2クラスずつあり、現在177名の園児が通っています。明るい菅園長を先頭に、さらに元気で明るい先生方と園児達の日常が始まりました。

こども達は、登園するとすぐに朝日を浴びて自由遊びに向かいます。縄跳び、凧揚げ、三輪車、ブランコ、かけっこ、砂遊び、まだまだ遊びは数えきれないほど沢山です。「生きる力」の基礎となる豊かな遊びと学びがい～っぱい。

10時半からは全員お集まりの体操、その後はゲームやお話、制作をクラスごとに楽しみます。取材に訪れた日は、卒園式の練習もはじまっており、年長さんの頼もしさが少々見え隠れして微笑ましく感じました。

いよいよ待ちに待ったお弁当タイム。お母さん方が、我が子の健康を考えて作られたおにぎりや、おかずの数々は、小さなお弁当箱から溢れてくる親の愛情です。先生も子ども達と一緒にお弁当開き。子ども達がお弁当の見せっこや、空になったお弁当箱を誇らしげに笑顔いっぱいで見せてくれると、私のお腹はグーと鳴りながら、胸はジーンと温かくなりました。

先生方や、ご家族の愛情に包まれ、見守られている子ども達が、益城の大切な宝としてすくすくと成長することを願いつつ幼稚園をあとにしました。

（取材　坂田みはる）

サーキット遊びに　エネルギー全開の園児達

美味しいお弁当に大満足

平成26年2月　益城町議会だより 清　水
発行／益城町議会（議長・中村健二）編集／議会広報編集特別委員会
〒861-2295 熊本県上益城郡益城町宮園702 TEL.096-286-3111（代表）　FAX.096-286-4523
印刷／ホープ印刷㈱

この議会だよりはエコマーク商品の再生紙をつかっています